くまもと市PTA会報

熊本市PTA協議会
会　　長　緒方 玲子
編集責任者　吉山 智之
熊本市中央区草葉町5-1
TEL(356)1122　FAX(351)2309
http://www.kumamotocity-pta.net
info@kumamotocity-pta.net
印刷：㈱キャップ
TEL(362)3333

第30回熊本市PTA研究大会

平成27年11月28日（土）熊本保健科学大学にて

平成27年度熊本市PTA研究大会が「ONKOCHISHIN～それぞれの温故知新・新しい時代へ引き継いでいくもの～」を大会テーマとして約900人の参加のもと開催されました。研究大会は全体講演と4つの分科会で構成されました。

◆全体講演

『勉強するのは何のため？～教育（の未来）をテッガクする!?～』

講師 熊本大学 教育学部 講師 苫野 一徳 氏

講師：苫野 一徳 氏

哲学者、教育学者として活躍する苫野氏は、テッガクを土台にした今後の教育の在り方を、次のように講演されました。

テッガクって何だ？

テッガクとは、物事や問題の大事なポイント（本質）を見抜き、それを最もうまく解き明かす考え方（原理）を出すというものです。共通了解（最大多数の人の納得）が可能な教育の本質を洞察することで、教育を作る方向性を考えることができます。

教育の考え方初歩の初歩

教育を考えるにあたり、皆さんと共有したい考え方があります。

一つ目は「一般化のワナ」にひっかからないことです。教育における議論は、自分の経験を他人にあてはめるという、「一般化」に陥りやすいのです。

二つ目は、「問い方のマジック」に陥らないことです。「どちらが正しいですか？」という問いは、どちらかが正しいと認識してしまいがちなのです。

何で勉強なんかしなくちゃいけないの？

このことに対する「絶対に正しい答え」はなく、多数の共通了解を探求することが重要で、「これが勉強する意味だったのか」と一瞬でも思えることを探求することが第一歩です。その答えに、「自由になるため」ということを提案します。自由、つまり、自分の生きたいように生きるためには勉強して蓄えられた力が必要なのです。

何で学校に行かなきゃいけないの？

人間が自由に生きるために、お互いを対等に自由であると認める「自由の相互承認」という原理があります。その第一歩に、「法（ルール）」があり、教育で育まれる力を必要とします。教育を平等に受けられる学校は、全ての子どもが相互承認の感度を高め、自由に生きるための力を育むためにあるのです。そこには、自己承認、他者の承認、他者からの承認が必要であり、人間関係の流動性を担保する事も重要です。

自由に生きるための学びを深く実感・達成できる学校にするために、学びの個別化、協同化、プロジェクト化の融合が必要なのです。

講演後の会場は、テッガクが身近に感じられたこと、今までにないテッガクを土台にした教育の捉え方に触れられたことへの充実感で満ち溢れていました。

（三和中学校 田野 恵隆）

会長あいさつ

「市P研究大会に寄せて」

熊本市PTA協議会 会長 緒方 玲子

熊本市PTA協議会
会長 緒方 玲子

皆様こんにちは。熊本市PTA協議会会長をさせていただいております、出水南中学校PTA会長緒方でございます。本日は、大変お忙しい中、熊本市PTA研究大会にご参会いただき、誠にありがとうございます。また、本日公私ともにご多用のなかご臨席賜りました、熊本市の 岡 教育長様をはじめ、ご来賓の皆様に心より御礼申し上げます。

さて、皆様におかれましては、日頃より各学校や区のPTA連絡会におきましてご尽力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。PTA活動は子どもたちのための活動であることは間違いありませんが、一方で会員お一人お一人の学びの場、自己研鑽の場でもあります。そして、そのような場は日々のPTA活動のなかにももちろんたくさんありますが、とりわけ本日のような研究大会、講演会等の研修の中には特にその要素が凝縮されているととらえ、皆様に質の良い学びの場をなるべく多く提供していきたいと考えているところです。今年度から、九州や全国研究大会への参加も可能となりました。来年度以降さらに多くの方々にご参加いただきますようご案内を申し上げます。

さて、本日は「ONKOCHISHIN～それぞれの温故知新・新しい時代へ引き継いでいくもの～」というテーマを掲げ、開催いたします。時代は流れ、子どもたちを取り巻く社会環境は著しく変化し、人々の考え方や価値観もどんどん変わっていく現代です。私たちは子どもたちの何を見つめ、何を育て守っていかなければならないか、どんなに環境が変わっても決して揺らぐことのない大切なものは何か、それらの答えに繋がる糸口を見つけていただければ幸いです。本日は、全体会では熊本大学教育学部講師でいらっしゃいます苫野一徳先生にご講演をお願いいたしました。また、そのあとの4つの分科会においても、各分野でご活躍の講師の先生方をお迎えし、それぞれの視点からの貴重なご講演をいただきます。先生方、どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、皆様よくご存じの東京スカイツリーについてお話しいたします。この塔は当初、建設がほとんど不可能ではないかと思われていたそうです。一万一千坪の細長い土地、しかも地下を都営浅草線が走っている敷地に、600メートルを超えるタワーを建設するというのですから無理もありません。しかし、不可能と思われたことを可能にしたもの、それは日本人古来の知恵でした。次のようなエピソードがあります。細くて高い塔ですから、誰もが心配したのは台風と地震でした。それを奈良の法隆寺の五重塔建立の知恵を生かして解決したというのです。五重塔は、心柱が建物の中心を貫き、各層が独立した構造になっています。互いに支えあい、強風や地震の揺れにも耐え続け、千年以上たった今でも美しい姿で堂々と立っているのもその知恵（構造）のおかげなのです。東京スカイツリーは、古来の知恵をふんだんに取り入れながら現代の英知と技術をもって完成した、まさに古と新の融合のたまものでありましょう。私はこの話から子育てについても大きな示唆をもらった気がいたします。皆様いかがでしょうか。

最後になりましたが、素晴らしい学習環境にあります本会場を快くお貸しくださいました熊本保健科学大学様、本大会を開催するにあたり企画準備等にご尽力いただきました市P教養委員の皆様、ご協力をいただいた全ての皆様に心より感謝を申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

◆第1分科会

『新しい教育の在り方 ～ICT教育の現状と展望～』

講師 熊本県立大学総合管理部情報管理コース 准教授 小薗 和剛 氏

講師：小薗 和剛 氏

新しい教育の在り方として、ICT（情報通信技術/情報コミュニケーション技術）を取り入れた教育が推進されています。ICT教育の推進を行うことで、情報を活用する力、自立する力等の向上が期待できます。

ところで、平成26年6月24日に「世界最先端IT国家創造宣言」が、閣議決定されました。その内容は、まず2010年代中に全ての小・中・高・特別支援学校で教育関係のIT化（タブレット端末を利用した授業、デジタル教科書の活用）を実現。次に、学校と家庭がシームレスにつながる教育・学習環境を構築。さらに、家庭での事前学習と連携した授業など指導方法の充実を図るというものです。

ここでICT教育のメリット・デメリットについて簡単に説明します。まずデメリットとして、タブレット端末に参考書や辞書などうまくダウンロードされてないと授業にならないこと。慣れないタブレット操作に授業が中断する可能性があり、やる気の低下につながる。読書力の低下（自分で学ぶ力や考える力が弱くなる可能性がある）。一斉授業に伴い生徒が一斉に取り入れていくのは無理がある。韓国ではかなり前から導入されているが、学力の向上は認められなかった。

メリットとして、多様なメディアを利用でき、空き時間等に調べる事ができ、探求心の向上に繋がる可能性がある。繰り返し学べることにより理解度の向上に繋がる。学習内容を生徒相互に共有し、考え方の多様性を知ることができる。教科書等では限界のある情報の収集ができる、等が挙げられます。

日本におけるICT教育への取り組みは諸外国にくらべ圧倒的に遅れているそうです。大きな都市ではプログラミングを学ぶ塾の人気が出ています。今後、ICTの進展による教育環境の変化、社会の大きな変化に伴い、21世紀型スキルが必要になると思います。

最後に小薗先生より、ICT教育を導入するのは最終手段であり、教育課題の本質を知る事が大切であり、生徒が本当に必要としていることは何なのかを明確にしなければならないとコメントをいただきました。

（桜木中学校 山田 マリ）